

練馬区立小中一貫教育校検証計画

1 練馬区における小中一貫教育の取組

(1) 大泉桜学園開校前(平成23年3月まで)

練馬区における小中一貫教育に関わる研究および検討は、平成14年度から始まり、答申や計画等に小中一貫教育の必要性や期待が示された。

平成14～16年度	下石神井小学校・石神井南中学校の研究(平成14・15年度 文部科学省小中連携教育実践研究協力校、平成15・16年度 練馬区教育委員会教育研究校)
平成15年3月	「地域と共にある練馬の学校～通いたい、学びたい、共に過ごしたい～」(平成15年3月 21世紀の練馬の教育を考える懇談会答申)
平成17～19年度	上石神井小学校・上石神井中学校の研究(平成17～19年度練馬区教育委員会教育課題研究指定校)
平成17年度	隣接校小中連携教育推進連絡会の開催
平成18年3月	「練馬区新長期計画(平成18～22年度)」策定
平成19・20年度	光が丘第五小学校・光が丘第三中学校の研究(平成19・20年度練馬区教育委員会教育課題研究指定校)
平成20年11月	「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」(平成20年11月 練馬区教育委員会)
平成20年12月	大泉学園桜小学校と大泉学園桜中学校を小中一貫教育校に選定
平成22年2月	「練馬区立小中一貫教育校実施計画中間のまとめ」(平成22年2月 練馬区立小中一貫教育校推進委員会) 「練馬区立小中一貫教育校に関するアンケート調査報告書」(平成22年2月 練馬区教育委員会)
平成22年3月	「練馬区長期計画(平成22年度～26年度)基本計画編」
平成23年1月	「練馬区立小中一貫教育校実施計画～大泉桜学園の開校に向けて～」(平成23年1月 練馬区立小中一貫教育校推進委員会)
平成23年2月	「練馬区立小中一貫教育資料」(平成23年2月 練馬区教育委員会・練馬区小中一貫教育資料作成委員会)

(2) 大泉桜学園開校後(平成23年4月から)

練馬区初の施設一体型小中一貫教育校として大泉桜学園が開校するとともに、練馬区は小中一貫教育の全区展開に向けて、中学校区を単位とする小中一貫教育研究グループを指定し、他の小中学校における研究活動を始めた。

平成23年4月	練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園開校(平成23・24年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校)
平成23年4月	10組22校を小中一貫・連携教育研究グループに指定
平成24年2月	「練馬区小中一貫教育推進方策」(平成24年2月 練馬区教育委員会)
平成24年2月	全小中学校で小中連携推進教員(連携クリエイター)を選任
平成24・25年度	石神井東小学校・石神井東中学校の研究(平成24・25年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校)
平成24年5月	「練馬区教育振興基本計画(平成24~33年度)」策定
平成24年11月27日	練馬小中一貫教育フォーラム開催(練馬文化センター大ホール)
平成24年11月	「練馬区小中一貫教育研究報告書」(平成24年11月 練馬区教育委員会)
平成25年2月8日	練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園研究発表会(平成23・24年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校)
平成25年4月	10組22校を小中一貫教育実践校・連携校へ移行 6組16校を小中一貫教育研究グループに指定
平成25年9月	文部科学省委託事業「小中一貫教育校における多様な教育システムの調査研究」開始

(3) 検証の必要性

小中一貫教育校設置後の展開については、「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」(平成20年11月)の「第4章 小中一貫教育校の選定と今後の進め方」において、「小中一貫教育校の取組とその成果については、情報提供、研究発表、人事交流等を通じて、他の小中学校における継続的な指導の在り方や課題解決等に生かし、練馬区すべての小中学校における教育活動と指導の質的向上を図っていきます。また、小中一貫教育校の成果を検証した上で、小中連携教育の強化を進めていくとともに、小中一貫教育校を更に設置することについて検討します。」と示している。

平成25年度は大泉桜学園が開校して3年を迎えることから、検証計画の作成を

含めた取組を開始することとした。大泉桜学園の検証は、上記の基本方針に基づいて実施するものである。

2 検証の準備

(1) 文部科学省調査研究事業との関連

平成 23 年 4 月に開校した大泉桜学園の検証は、平成 25 年度から始まる文部科学省調査研究事業「小中一貫教育校による多様な教育システムの調査研究」の取組の一環として、小中一貫教育校の教育活動の検証および小中一貫教育の評価手法の開発について検討するものとした。そのため、本区では練馬区小中一貫教育推進会議を立ち上げるとともに、その下部組織として小中一貫教育校検証部会を設置した。本事業の取組は 3 か年の計画とし、平成 25 年度は検証計画の検討と作成、平成 26 年度は検証の実施、平成 27 年度は検証方法の整理と位置付けた。

(2) 小中一貫教育校検証部会

本部会の委員構成は、平成 25 年度においては検証計画の作成を目的とすることから下記のとおりとした。

小中一貫教育校検証部会		人数
部会長	学識経験者	1
部会員	練馬区立小中一貫教育校 大泉桜学園校長	1
	練馬区立大泉学園緑小学校長	1
	練馬区立小学校長会	1
	練馬区立中学校長会	1
	教育指導課長	1
	教育企画課長	1
協力委員	研究協力者	1
	小中一貫教育校大泉桜学園教職員	必要に応じて

また、平成 26 年度以降は、検証計画に基づいて検証作業を行うことを目的とすることから、下記の委員を含めて本部会を拡大する。

小中一貫教育校検証部会		人数
部会員	練馬区小学校 P T A 連合協議会	1
	練馬区立中学校 P T A 連合協議会	1
	桜連絡会	1 ~ 3
	大泉桜学園学校評議員	2
	大泉桜学園学校応援団	2
	町会	1

(3) 平成 25 年度における検討経過

平成 25 年度においては、作業部会や打合せ、視察等を行い、4 回の検証部会を開催して計画作成に取り組んだ。

	日時	場所	内容
	平成 25 年 10 月 15 日 (火)	大妻女子大学	部会長との事前打合せ
	平成 25 年 11 月 5 日 (火)	練馬区役所 12 階 教育委員会室	推進会議委員長、育成研修部会長および検証部会長による打合せ
視察	平成 25 年 11 月 7 日 (木)	三鷹市役所	三鷹市教育委員会視察訪問
視察	平成 25 年 11 月 8 日 (金)	武蔵村山市立小中 一貫校村山学園	武蔵村山市教育委員会視察訪問
視察	平成 25 年 11 月 19 日 (火)	練馬区立小中一貫 教育校大泉桜学園	大泉桜学園視察訪問
視察	平成 25 年 11 月 21 日 (木)	つくば市	つくば市立春日学園視察訪問
第 1 回	平成 25 年 12 月 4 日 (水)	練馬区役所 12 階 教育委員会室	先進自治体における検証状況 検証項目 (案) 検証スケジュール
	平成 25 年 12 月 18 日 (水)	東京大学	検証アンケート作業部会
第 2 回	平成 26 年 1 月 14 日 (火)	練馬区役所 12 階 教育委員会室	検証項目および検証方法について 検証アンケートについて
	平成 26 年 1 月 14 日 (火)	練馬区役所 12 階 教育委員会室	検証アンケート作業部会
	平成 26 年 1 月 30 日 (木)	大妻女子大学	検証アンケート作業部会
視察	平成 26 年 2 月 4 日 (火)	杉並区立阿佐ヶ谷 中学校	阿佐ヶ谷中学校研究発表会
第 3 回	平成 26 年 2 月 7 日 (金)	練馬区役所 12 階 教育委員会室	検証項目および検証資料について 検証計画について
	平成 26 年 2 月 7 日 (金)	練馬区役所 12 階 教育委員会室	検証アンケート作業部会
研修	平成 26 年 2 月 19 日 (水)	練馬区立小中一貫 教育校大泉桜学園	研究推進のための講演会
視察	平成 26 年 2 月 21 日 (金)	呉市立呉中央学園	つくば市立春日学園視察訪問
	平成 26 年	大妻女子大学	検証アンケート作業部会

	日時	場所	内容
	2月25日(火)		
第4回	平成26年 2月26日(水)	練馬区役所12階 教育委員会室	検証項目および検証資料について 平成26年度の検証計画について
	平成26年 2月26日(水)	練馬区役所12階 教育委員会室	検証アンケート作業部会

3 基本方針

大泉桜学園の検証を行うに当たっては、学力調査や体力調査等の数値上の結果のみによる比較で検証を行うのではなく、学校の組織的対応や指導の工夫等の変化と児童・生徒における変容との関係を把握することを中心に検証するものとした。

また、大泉桜学園は、平成21・22年度の2年間に27回の練馬区立小中一貫教育校推進委員会を開催し、保護者や地域、学校関係者等による検討を踏まえた「練馬区立小中一貫教育校実施計画～大泉桜学園の開校に向けて～」(平成23年1月)に基づいて学校づくりを行った。この実施計画は、「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」(平成20年11月)に基づき、具体的な学校の在り方を整理したものであることから、本校の検証を行うに当たっては、この基本方針に示されている小中一貫教育校設置による期待される効果に基づいて行うこととした。

「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」(平成20年11月)

2 小中一貫教育校設置の効果

9年間を見通した教育課程を編成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実を図ることができます。

小学校から中学校へ進学する際の段差(学習内容や指導方法の違い)を緩やかなものにし、円滑な移行を図ることにより、安定した学校生活を送ることができます。その結果、不登校や問題行動を減少させることもできます。

幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性を育成することができます。

小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができます。

地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を高めて、地域の教育力を向上させることができます。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができます。

4 検証項目および活用が考えられる資料

(1) 検証項目

検証項目は、「練馬区立小中一貫教育校設置に関する基本方針」(平成20年11月)で

示している「小中一貫教育校設置の効果」を基に、下記の7項目に分類して設定する。

期待された効果	検証項目
<p>9年間を見通したカリキュラムを作成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実を図ることができる。(主に学習指導、体力向上)</p>	9年間を見通した教育課程の編成状況
	4 - 3 - 2の区分における発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導の充実
	5・6年生の一部教科担任制の効果
	4 5・6年生の50分授業の効果
	習熟度に応じた指導や補足的な学習などの個に応じた指導等の充実に向けた教員間の協力の状況
	児童生徒の学習における観点別学習状況の評価や評定の状況
	体力向上に向け指導の充実にかかわる教員間の協力の状況
<p>小学校から中学校へ進学する際の段差(学習内容や指導方法の違い)を緩やかなものにし、円滑な移行が図れる。その結果、不登校生徒を減少させることもできる。(主に生活指導、特別支援教育)</p>	4 - 3 - 2の区分における発達段階に応じた計画的・継続的な生活指導の充実 円滑な移行による安定した学校生活
	不登校や問題行動の状況
	全学年における標準服の着用の効果
	学校の生徒指導に取り組む体制や問題行動への対処の状況
	保護者や地域社会、関係機関等との連携協力の状況
	スクールカウンセラーや心のふれあい相談員、家庭や地域の関係機関等との連携協力による教育相談の状況 特別支援教育の取組状況
	児童・生徒の体格、疾病等の状況
<p>幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性の育成ができる。(主に道徳、総合的な学習の時間、特別活動、進路指導)</p>	たてわり活動や合同行事等の異年齢集団活動を通じた豊かな人間性や社会性の育成に向けた指導の状況
	5・6年生からの参加を含めた部活動の状況
	伝統文化理解教育の実施状況
	命の大切さや環境の保全などについての指導の状況
	自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況
	特別支援学校の児童生徒との交流及び共同学習の状況
<p>小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が今まで以上に構築でき、学力や体</p>	小・中学校教員の相互協力関係の構築 校内研究の実施状況と小中一貫教育の研究
	学校組織(校長1名・副校長3名体制)、兼務発

期待された効果	検証項目
力の向上等の高い教育効果を上げることができる。(主に学校運営)	令、校務分掌、組織体制、用務、施設管理、給食、事務、諸会議の運営等の小中一貫教育校としての運営状況
	学校の財務運営の状況
地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を得られる。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができる。(主に保護者、地域)	地域社会と連携した生涯スポーツの推進
	地域社会との連携と小中一貫教育校による学校・家庭・地域社会(避難拠点、青少年育成など)との連携状況
	P T A 組織や学校評議員会の状況
施設整備における効果と課題	職員室、東校舎・西校舎、渡り廊下、校庭、ランチルーム、多目的室、プール、体育館、学習室、保健室、相談室、個別学習室、学校図書館ほか
小中一貫教育の課題を解決し推進するための先導的な役割、通学区域と学校選択制度、教育委員会の役割	通学区域制度の特例、学校選択制度の特例
	小中一貫教育校への支援および小中一貫教育の充実・推進の状況

(2) 活用が考えられる資料

大泉桜学園

項目名	年度/月	対象	形式
運動会	23、24、25	保護者・地域	手書きアンケート
学習発表会	24/2	保護者	手書きアンケート
学校公開	25/6、24/9	保護者	手書きアンケート
桜祭保護者アンケート	24/11、25/10	保護者・地域	手書きアンケート
学校評価	23/2、24/2、25/2	3年生以上児童生徒・保護者・教員	マークシートアンケート・エクセルデータ
学校評価保護者アンケート	25/12	全学年	手書きアンケート
学校生活満足度調査	24/2、24/6、24/11、25/6、25/11	全学年	マークシートアンケート・エクセルデータ
校内研究	24/3、24/7	児童生徒	マークシートアンケート・エクセルデータ
研究発表会アンケート	25/2	参会者	手書きアンケート
体力テスト	23/6、24/6、25/5	全学年	CD

項目名	年度/月	対象	形式
全国学力学習状況調査	24/4、25/4	6年生、9年生	
東京都学力向上を図るための調査	23、24、25	5年生、8年生	
練馬区学力テスト	23/6、24/6、25/6	6年生、9年生	CD
健康診断の記録	23、24、25	全学年	

区教育委員会

項目名	年度/月	対象	形式
練馬区立小中一貫教育校に関するアンケート調査報告書	22/2	大泉学園桜小学校、大泉学園緑小学校、大泉学園桜中学校の児童・生徒、保護者、教員	冊子
小中一貫教育校の取組に関する意識調査	24、25	大泉桜学園教員	エクセルデータ

(3) 検証資料の取扱い

検証に必要な資料は、検証の基本方針に基づいて収集する。

また、各種調査結果や保護者アンケート等について検証資料として活用する場合には、事務局が整理し、大泉桜学園校長と調整したうえで検証部会に提示する。

なお、大泉桜学園で実施している学校生活アンケートの調査結果については、下記の学年データを中心に学年別、男女別、卒業小学校別等の比較や個々の児童生徒の回答状況について経年変化を追跡する。

	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年
平成26年6月						
平成25年6月						
平成24年6月						

、小中、の児童生徒の変容を中心に把握する。

(4) ヒアリングについて

- ・ 教職員等のヒアリングは検証部会とは別に行い、検証部会で使用する資料として事務局がヒアリングの内容を整理する。
- ・ ヒアリングは、調査員と事務局の担当で実施し、記録用紙への記入で記録する。
- ・ 検証部会における協力委員からのヒアリングは、検証資料を補完するものとして補助的に実施する。

(5) 意識調査について

- ・ 学校評価アンケート、学校生活アンケート、校内研究アンケート等、大泉桜学園で実施している調査やヒアリングで不足する部分を中心に質問項目を設定する。
- ・ 事務局で実施する意識調査の集計結果については、学年別、男女別、卒業小学校別に比較するなどの分析を行う。

5 今後の予定

(1) 平成26年度

回	時期	内容
1	平成26年6月17日	大泉桜学園の現状把握 検証計画の確認
	平成26年7月～8月	意識調査およびヒアリングの実施(～8月)
2	平成26年8月	意識調査およびヒアリングの内容および方法の確認 小中一貫教育校の検証 (施設整備について/学校組織について)
3	平成26年9～10月	小中一貫教育校の検証 (通学区域制度・学校選択制度の特例の検証/小中一貫教育推進の先導的な役割の検証/教育委員会の役割の検証)
4	平成26年11～12月	検証アンケートまとめ 小中一貫教育校の検証 (4-3-2区分による学習指導・生活指導の検証/5・6年生の一部教科担任制・50分授業の検証/幅広い異年齢集団活動の検証)
	平成27年1月23日(金)	小中一貫教育フォーラム
5	平成27年2月	小中一貫教育校の検証 (円滑な移行による安定した学校生活の検証/教育課題の実践的な研究の検証/学校・家庭・地域社会の教育力向上、PTA組織の検証)

(2) 平成27年度

回	時期	内容
1	平成27年5月	小中一貫教育の評価手法(1)
2	平成27年7月	小中一貫教育の評価手法(2)
3	平成27年9月	小中一貫教育の評価手法(3)
4	平成27年11月	小中一貫教育の評価手法(案)まとめ
5	平成28年1～2月	大泉桜学園検証報告会(大泉桜学園研究発表会)
6	平成28年2月	小中一貫教育検証報告書まとめ

検証の進捗状況により、検証は平成27年度にも行う。